

自閉症の交流障害改善か

東大など実験 難病用の抗腫瘍薬

全身に良性の腫瘍ができる難病「結節性硬化症」の治療に昨年11月から国内で使われるようになった抗腫瘍薬「エベロリムス(商品名

・アフィニートル)が、自閉症のさまざまな症状のうち、社会的交流障害を改善させる可能性があることが分かった。東京大と東京都医

学総合研究所、順天堂大の研究チームによるマウス実験の成果で、英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズに発表された。

結節性硬化症は原因の遺伝子変異が特定されている。研究チームは同じ遺伝子変異を持つマウスが初めて会うマウスにあまり関心を示さず、自閉症の社会的交流障害に当たることを発見。エベロリムスと薬効が同じ「ラパマイシン」を投与すると症状が改善された。

結節性硬化症の患者は半数以上が自閉症を合併している。このため、日本小児神経学会を通じて医師に対し薬が効きやすい子供の結節性硬化症患者にエベロリムスを投与した際、副次的に自閉症の社会的交流障害が改善したかどうか報告を呼び掛けているという。